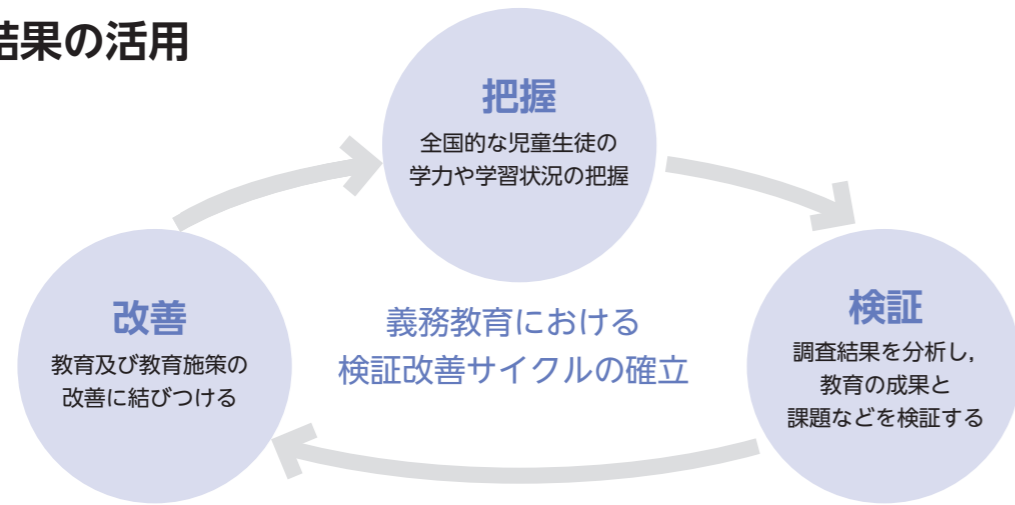


調査結果の活用



国	教育の改善に向けた全国的な取組を推進	(例) 学習指導要領の改訂, 各種施策の検証・改善, 教員の配置等への支援, 教育委員会や学校における改善の取組への支援 など
教育委員会	域内の教育の改善に向けた取組を推進	(例) 教員の配置等の工夫, 教員研修の充実, 教育指導等の改善のための資料の作成, 保護者や地域と連携した取組 など
学校	個々の児童生徒の課題に応じた教育指導の改善に向けた取組を推進	(例) 課題を踏まえた授業改善の取組, 校内研修の充実, 家庭における学習習慣や生活習慣の確立に関する保護者への働きかけ, 放課後等における補充学習の実施 など

◎全国学力・学習状況調査を活用するための参考資料等

■全国学力・学習状況調査解説資料

調査の実施後、各教育委員会や学校が速やかに児童生徒の学力や学習の状況、課題等を把握するとともに、それらを踏まえて調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実等に取り組む際に役立てることができるように作成したものです。

■全国学力・学習状況調査報告書

調査結果を公表するとともに、調査結果を踏まえて学習指導の改善・充実を図る際に役立てることができるように作成したものです。各問題について、解答類型と反応率、分析結果と課題、学習指導の改善・充実を図る際のポイント等を記述。

■授業アイデア例

各学校において、今後の教育指導や児童生徒の学習状況の改善等に活用できるようにするため、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すもの。

■全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ

平成19～22年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析し、とりまとめた資料。

(概要)

- 各教科の領域等ごとに、児童生徒の「成果」と「課題」を整理
- 特に「課題」については、児童生徒一人一人の学習内容の着実な定着を目指して、その解決に向けた詳細な分析を行い、学習指導の改善・充実の参考となるポイント等を記載

■全国学力・学習状況調査の結果を活用した実践研究の成果報告書

調査結果から明らかになった課題に対して、教育委員会、学校等が連携しながら学校の教育活動等の改善に取り組んだ実践研究の概略等を掲載した報告書。

■全国学力・学習状況調査の結果を用いた追加分析

国や教育委員会、学校等の教育活動や、教育施策の一層の改善を図るため、大学等の研究機関の専門的な知見を活用し、高度な分析・検証を行った調査研究の報告書。

(分析例)

- 家庭の社会的背景と学力の関係に関する調査研究
- 良好な結果を示した教育委員会・学校等における教育施策・教育指導等の特徴に関する調査研究

これらの資料は、
文部科学省 HP
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm
国立教育政策研究所 HP
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>
に掲載されています。

平成30年度 全国学力・学習状況調査

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものです。

調査実施日：4月17日（火）

調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"> 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 実生活において不可欠であり常に活用できていることが望ましい知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況 など

時間割

◎小学校（児童質問紙は、4時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。）

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	
国語A（20分）、算数A（20分）	国語B（40分）	算数B（40分）	理科（40分）	児童質問紙

◎中学校（生徒質問紙は、5時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。）

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目	
国語A（45分）	国語B（45分）	数学A（45分）	数学B（45分）	理科（45分）	生徒質問紙

問題例：過去の全国学力・学習状況調査より

全問題については、(http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html) を参照。

小学校・算数B (平成29年度)

日常生活の事象の数学的な解釈と判断の根拠の説明（見かけの月の大きさ）

5

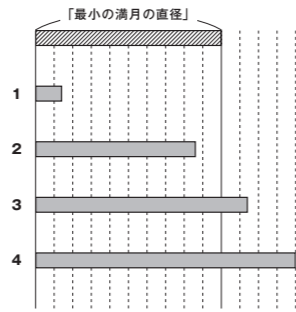
月は、地球のまわりを回りながら、地球に近づいたり、はなれたりしています。月の大きさは実際には変わりませんが、月が地球に最も近づいたときに、最も大きく見え、地球から最もはなれたときに、最も小さく見えます。地球から見える満月を円とみて、最も大きく見えるときの見かけの直径を「最大の満月の直径」、最も小さく見えるときの見かけの直径を「最小の満月の直径」ということにします。

「最大の満月の直径」と「最小の満月の直径」を比べてとき、「最小の満月の直径」をもとにすると、「最大の満月の直径」は約14%長いです。



(1) 「最小の満月の直径」を 、「最大の満月の直径」を として、図に表します。

「最小の満月の直径」をもとにして「最大の満月の直径」が14%長いことを表しているものを、下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



●出題の趣旨

示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断できるかどうかをみる。

●正答

3
(正答率 65.2%)

中学校・国語B (平成29年度)

スピーチをする（けん玉）

【問題】

けん玉は、けん玉の「玉」と「玉受け」の両方を上手に動かして遊ぶ遊具です。けん玉の「玉受け」は、けん玉の「玉」を受け止めるための「玉受け」です。けん玉の「玉受け」は、けん玉の「玉」を受け止めるための「玉受け」です。けん玉の「玉受け」は、けん玉の「玉」を受け止めるための「玉受け」です。

【問題】

けん玉の「玉受け」は、けん玉の「玉」を受け止めるための「玉受け」です。けん玉の「玉受け」は、けん玉の「玉」を受け止めるための「玉受け」です。けん玉の「玉受け」は、けん玉の「玉」を受け止めるための「玉受け」です。

【問題】

けん玉の「玉受け」は、けん玉の「玉」を受け止めるための「玉受け」です。けん玉の「玉受け」は、けん玉の「玉」を受け止めるための「玉受け」です。けん玉の「玉受け」は、けん玉の「玉」を受け止めるための「玉受け」です。

【問題】

けん玉の「玉受け」は、けん玉の「玉」を受け止めるための「玉受け」です。けん玉の「玉受け」は、けん玉の「玉」を受け止めるための「玉受け」です。けん玉の「玉受け」は、けん玉の「玉」を受け止めるための「玉受け」です。

●出題の趣旨

相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すことができるかどうかをみる。

●正答例

- （玉を受け止めるときは、）今私がやったように、玉の動きに合わせてひざを曲げるとよいです。なぜなら、皿と玉がぶつかるときの衝撃をやわらげる効果があるからです。(77字)
- （玉を受け止めるときは、）皿との衝撃をやわらげるために、ひざを曲げながら行うとよい。(41字)

(正答率 58.2%)

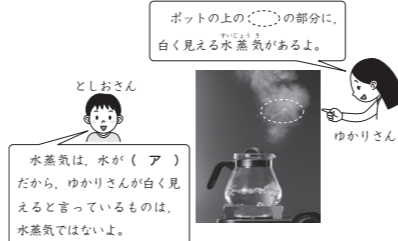
小学校・理科 (平成27年度)

水の三態変化

3

ゆかりさんは、アイスマルクティーとそれに入れる砂糖水をつくることにしました。

(1) ゆかりさんは、アイスマルクティーをつくるために、ポットに水を入れてふっとうさせました。



とおさんのことばの（ア）にあてはまるものを、下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 気体になつた水を変えて、目に見えなくなったもの
- 2 液体になつた水を変えて、目に見えなくなったもの
- 3 固体になつた水を変えて、目に見えなくなったもの
- 4 消えてなくなって、目に見えなくなったもの

●出題の趣旨

水蒸気は水が気体になったものであることを理解しているかどうかをみる。

●正答

1
(正答率 82.0%)

中学校・理科 (平成27年度)

魚のえらぶたの開閉回数と水温の関係を科学的に探究する（生物的領域）

8

綾さんは飼育している数種類の魚を観察していたところ、季節によってえらぶたの動きの違いがあることに気づき、実験を行いました。

(1)から(3)までの各問いに答えなさい。



【課題】

ハゼのえらぶたの開閉回数は、水温によってどのように変わるのだろうか。

【方法】

- ① ハゼを3匹用意する。
- ② 水温の条件を変え、それ以外の条件は同じにして、30秒間のえらぶたの開閉回数を数える(図1)。
- ③ 3匹の平均値を求める。

【結果】

水温	10℃	15℃	20℃	25℃
ハゼA	7	14	28	42
ハゼB	7	20	32	38
ハゼC	11	18	36	48
平均値	8	17	32	43

【考察】

【結果】の表1から、水温が10℃から25℃の範囲では、ハゼのえらぶたの開閉回数は、水温が高くなるほど増えると考えられる。

(1) ハゼのように背骨のある動物を、背骨のない動物に対して何といいますか。その名称を書きなさい。

(2) 【方法】③で平均値を求める理由として最も適切なものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 水温によって、えらぶたの開閉回数異なるから。
- イ 測定する時間の長さによって、えらぶたの開閉回数異なるから。
- ウ 空気量によって、えらぶたの開閉回数異なるから。
- エ それぞれのハゼによって、えらぶたの開閉回数異なるから。

●出題の趣旨

(1) 背骨のある動物を、セキツイ動物と表すことができるかどうかをみる。

(2) 水温の違いによるハゼのえらぶたの開閉回数を調べる実験で3匹の平均値を求める場面において、測定値の平均の知識（小学校算数、小学校理科、中学校数学）を活用して、平均値を求める理由を説明することができるかどうかをみる。

●正答

(1) セキツイ動物
(2) エ
(正答率 (1) 64.0%, (2) 56.4%)

調査結果等の集計・分析・提供

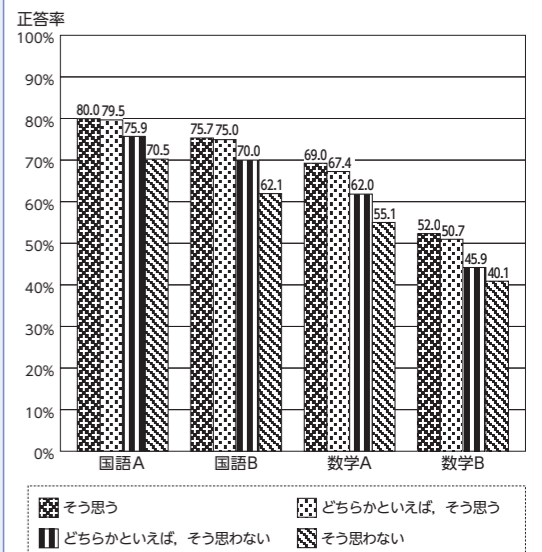
集計・分析

◇国全体、各都道府県、地域の規模等における調査結果を公表

◇児童生徒の学習環境や生活習慣、学校における指導や教育条件の整備状況等と学力の関係进行分析、公表

▼公表する調査結果の例

◇生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
(平成29年度調査：中学校)



提供

◇各教育委員会、学校に以下の調査結果を提供

- 児童生徒の正答数分布図
- 問題別正答率・無解答率、類型別解答状況
- 質問紙調査の結果
- 各児童生徒に提供する「個人票」 など

▼「個人票」のイメージ